

「心を耕す」

心を田んぼになぞらえた、心田という言葉がある。私たちの心は時に、草ぼうぼうで石がゴロゴロ転がった荒れ放題の田んぼになってしまう。荒れてしまった心田は、また一から土を掘り起こし、鍛錬するしかない。自分の心は、自分で耕すほかないのである。よく耕された、豊かな土地に蒔かれた種子のみが、多くの実を結ぶ。

(いのちの言葉 日野原 重明 より)

白露(はくろ)「陰気ようやく重なりて露にごりて白色となれば也」

今年は残暑が厳しそうですが、次第に秋らしさが深まる季節です。日本には、古来より季節の変化を感じ取った美しい言葉があります。美しいものを美しいと感じる心・優しい心・思いやりの心・感謝する心と、目に見えない大切な心が他にもたくさんあります。時として心が荒れて行動が乱れたり冷静さがなくなったり、思い悩んだりすることもあります。そんな時は、一度立ち止まり自らを客観的に見つめ直す・異なる考えにも耳を傾けてみる・周囲に目を向け小さな事にも気づき感謝することなども大切になります。そして、他人と比べない自分なりの幸せを見つけていきたいですね。

子どもたちは、見る・触る・舐める・這うなど身体の動きが自由になり、周囲の探索も盛んで様々なことに興味を持ち、刺激を受けて世界を広げています。この好奇心は生きる力そのものです。遊びを通しその力を培えるよう、視覚や聴覚・触覚を刺激されるようなマラカスや布製玩具、繰り返しを楽しみ指先を使うひも通しなど手作り玩具も用意しています。

心田を自ら耕し、種を蒔き、そしてたくさんの実を結べるような心を育む保育を行ってまいります。

クレイシュ保育園 園長 小清水 幸子
職員一同

9月聖句

ザアカイは急いで降りて来て、
喜んでイエスを迎えた。
ルカによる福音書 19章 6節



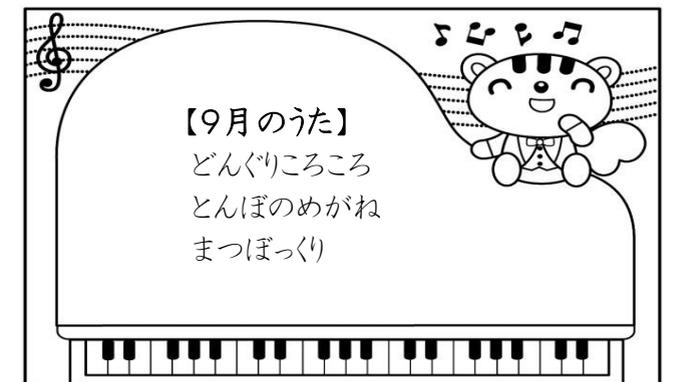
9月主題

「はずむ」0歳

- ・保育者の祈る姿を見て、神さまが近くにいる事を知る。
- ・行動範囲が広がり、探索活動を楽しむ。
- ・移りゆく季節に目をとめたり、耳をすます。

0歳児 mer(海)組の子どもたちの姿～

記録的な暑さを乗り切り、夏の思い出と共に子どもたちの成長も大きく感じられるようになりました。7月より行ってきた水遊びやシャワーでは、手作りジョウロに自分で水が汲めるようになり、顔の高さまで持ち上げ、流れ落ちる様子を声を上げ喜んでいました。室内では、車型の玩具入れの蓋を開け中のボールを取り出したり、棚まではいはいで行き絵本を手にし、指先を使いページを捲ったりする姿も見られるようになってきました。手遊びでは、期待に満ち溢れた顔で動きを真似、一緒に手や身体を動かすことも増えました。沢山遊んだ後は大好きな給食の時間です。友達がスプーンや手掴みで食べている姿を見て同じように手を伸ばし口に運び、顔を見合わせ微笑み 楽しい雰囲気の中で美味しそうに食べています。一日一日と出来るが増えていくこの時期にやりたいと思える環境作りと、やってみたい気持ちを大切に心と体の発達を育てていきたいと思っています。



	月	火	水	木	金	土	日
9月の予定表						1	2
	3 引渡し訓練	4	5	6	7	8	9 救急の日
	10	11	12	13	14 身体測定	15	16
	17 敬老の日	18	19	20	21	22	23 秋分の日
	24 十五夜	25	26	27	28 クレイシュ通信	29	30
	◎十五夜に因んだ製作活動します。 ◎引渡し訓練 16:30～17:00に実施へのご協力お願い致します。						
	◎入園から日が経ち持ち物の名前が消えてしまっている物がありますので、今一度確認をお願いいたします。						